



## 明誠之才

教頭 高島敦子

ダンスパーティ、フェアリー、墨田の花火…何の名前かご存じでしょうか？土の酸性度によって花の色が違い、酸性の土で育てれば青く、アルカリ性の土で育てれば赤くなりやすいそうです。また、咲き始めから日が経つにつれ色が変化することから、移り気「無常」という花言葉がついたようです。もうお分かりですね。紫陽花 あじさい(い)です。

新年度の疲れが出て、その上蒸し暑くなってくるこの時期、紫陽花の淡い色合いがそっと癒やしてくれます。

本校には「花いっぱい活動」があり、これからの季節は、紫陽花、向日葵、秋桜、マリーゴールド、鶏頭、朝顔が校内を彩ります。学校を花でいっぱいにして、自然を愛する心をはぐくむとともに、生活しやすい環境を作るために、クラスごとに曜日を決めて、各クラスの花「花いっぱい委員」が水やりを行います。

花を育てることは、未来を育てることもあります。夏に花咲くことを思っ春に種を蒔きます。

「桃栗三年柿八年」と言いますが、三年後、八年後に実をつけることを思っ木を植えます。四月末の休校期間中に種を蒔いた向日葵も葉を広げて太陽の光を一心に浴び

ながら成長しています。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、高総体が、甲子園予選が、吹奏楽コンクールが中止になりました。目指していたものが、目の前から忽然と消えたこと、戦う前に失われてしまったことの大きさは、計り知れませ

ん。多くの体育部で、三年生の最後の舞台が準備されました。様々なコロナ禍の制約がある中で、それでもできることを模索した結果です。

いくつかの部の最後の試合を観に行きました。この時のために三年間やってきたのだと言えるような、渾身の一球、一打、一本が、そこにはありました。これまで苦楽を共にしてきた先生や仲間との時間を惜しむように、戦う姿がありました。いつもの高総体とは違いました。いつもの高総体とは違いました。胸が熱くなりました。目指してきた高総体は無くなりましたが、それに向けて積み重ねてきた毎日は無くなりません。それに向けて切磋琢磨してきた仲間が隣にいます。それを誰よりも知っているのは自分自身です。今回の試合では、競り合ったときに、最後のふんばりがきかずに負けてしまったかもしれません。でも、これからの人生で同じような場面になったとき、次は歯を食いしばって勝ち取ってほしいと思います。

ある先生は、三年生の最後の舞

台を整えるために、暑い中弓道場の草を刈ってくれました。朝練に行く息子のために毎朝早起きしてお弁当を作ってくれた保護者もいらっしゃいます。三年生の皆さんは、これまでの活動を支えてくれた周囲の方への感謝の気持ちを忘れないでください。さあ、次はそれぞれの進路実現に向かう時です。舞台は変わりますが、しっかりと頑張ってください。

令和2年度生徒会スローガンが、生徒会執行部の皆さんによって決定しました。今年のスローガンは「明誠之才」。これは中国の書物『文選』の中の「命世之才、世間に知られた突出した才能を持つ人物」ということばを踏まえたものです。「命世」の表記を学校名の「明誠」とすることで、長崎明誠高校の生徒一人一人が互いをかけがえない才能を持つ存在として認め合っている、学校生活を通じて切磋琢磨して自らの力を伸ばし、互いの持つ力を活かして合って充実した行事を創り出し、それぞれが思い描く進路の実現を目指していきたいという思いを込めたものだと思っています。素晴らしいスローガンだと思います。

力強く存在を示す向日葵のように、そっと寄り添う紫陽花のように、一人一人の才が、長崎明誠高校を舞台に、色とりどりに咲き誇ってほしいと思います。そして、五年後十年後にも自分という花を咲かせられるよう、今を精一杯頑張ってください。

### PTA評議員会 3学年保護者会

5月16日(土)、本校体育館にてPTA評議員会と3学年保護者会がありました。今年度はPTA総会中止のため、この評議員会の議決を総会の議決とし、昨年度の事業・決算・監査の報告と新年度の事業計画・予算案について審議をいただきました。今年度もPTA一人一人「役割」活動をはじめ、多くの諸活動について「層の」理解とご協力の程よろしくお願いいたします。旧役員の皆様におかれましては、本校のPTA活動にご尽力いただきありがとうございます。今後、新役員の皆様、今後二年間よろしく願っています。

3学年保護者会では、学年主任や進路指導部から、進路実現に向けての取組や進学・就職の手続きについて説明がありました。3年生の皆が、納得のびる進

路実現ができるよう、ご家庭と連携して生徒を支援していきたいと思っています。



### 6・7月の行事予定

- 6月23日(火) 第1回考査(～26日)
- 27日(土) 3年進研マーク模試(～28日)
- 29日(月) オンリーワン活動(～7月8日)
- 7月 2日(木) 生徒会役員改選
- 3日(金) 容儀指導
- 11日(土) 進研実力テスト(1・2年)
- Vステップ模試(2・3年)
- 公務員模試(3年)
- 13日(月) 面談集中週(～22日)
- 16日(木) 球技大会(～17日)
- 21日(火) 授業設定日(午前授業)(～31日)
- 31日(金) 全校集会



# 主将の思い

高総体が中止となり、体育部では代替試合などが行われました。多くの3年生がこれで部活動を引退します。各体育部の主将に、代替試合の結果や、今の思いを聞きました。

## 陸上競技部 山口 健太郎

高総体が中止となってしまい、とても悲しく思いました。しかし、高校最後の高総体が中止になったからといって、今までの努力や、先輩・後輩との思い出がなくなるわけではありません。なので、これからは切り替えて自分の進路に向けて頑張っていきたいです。

## 卓球部 中尾 大介

代替試合の3年生大会の結果は、女子団体2位パートで1位、男女シングルでは全員が1勝することができました。高総体はできなかったですが、代替試合の開催を検討し、運営をしてくださった皆さんに感謝しています。完全燃焼できたかは個人差がありますが、引退の区切りをつけて、今後は勉強を頑張っていきたいです。



## バレーボール部 向井 萌花

代替試合では5試合行いました。2勝3敗という結果でしたが、最後までボールを追いかけてチームのみんなと全力プレーをすることができました。高総体ができずとても悔しかったです。だからこそ、次の1・2年生のチームは、もっとバレーを楽しんでたくさん思い出を作ってもらいたいと思っていました。そして今よりも強くなりたいです。今までこのチームでバレーをすることができて本当に良かったです。



## 男子バスケットボール部 江尻 聖

代替試合は、5月30日に南山高校、北陽台高校と、6月7日に総科大附属高校と対戦しました。結果は1勝2敗でした。3年生は最後の試合が高総体ではなく練習試合という残念な形になってしまいました。最後は勝って終わることができてよかったです。



## 男子バドミントン部 深浦 琉斗

今回はこのような形で引退となり少し残念です。しかし、最後に代替試合として他校と練習試合を行うことができ、高校入学から今までの練習の成果が発揮できたと思います。3年生はこれで終わりですが、1・2年生には自分達の間で結果を残してくれたらなと思います。

## 女子バドミントン部 田口 芽依

2年間続けてきた部活が突然終わってしまうことはとても悔しく、悲しいことでしたが、これまでみんなで頑張ってきたことが嬉しかったです。悔しい気持ちはなくなりませんが、これからは気持ちを入れ替え、進路達成を目標に頑張っていきたいです。今年叶えられなかった、高総体という部活動での最終目標は後輩達に託します。新チームで大変な時期ですが、協力して頑張っていきたいです。

## 男子ソフトテニス部 安永 航希

6月7日、練習試合がありました。この試合で見つけた改善点を意識して練習に取り組み、7月23日にある代替試合で悔いなく終わりたいです。

## 女子バスケットボール部 永本 茉采衣

高総体が無くなった悔しさを最後の試合でぶつける気持ちで、6月6日に西彼杵高校と玉成高校の2チームと対戦しました。試合の流れもよく、特に玉成高校とは接戦でしたが、2戦とも全員バスケで勝つことができました。最後にはいい形で終わることができてよかったです。ウインターカップ予選まで残る3年生もいるので、それに向けてまだまだ練習を頑張ります。

## 弓道部 金丸 廉

私たちは、代替試合及び引退試合として、校内試合を6月4日に行いました。四ツ矢一立的中制で競技を行いました。同中の場合は競射で順位を競い合いました。結果は、男子1位金丸、2位三谷、3位濱口、女子1位出口、2位高見葉奈、3位佐藤の結果となりました。高総体が中止になった事はショックでしたが、2年生は次の大会、3年生は進路実現に向けて頑張ります。



## ボート部 大塚 日奈里

6月7日に諫早市本明川で代替試合が行われました。各クルー1本勝負で、この1本に3年間の思いを込めて漕ぎました。悔しさが残る結果となりましたが、全員が笑顔で終わることができました。これからそれぞれが違う道へ進みますが、部活動で学んだことを生かして頑張っていきたいです。



## サッカー部 田中 勇人

僕はまだ選手権大会があります。この大会で、高総体がなくなった悔しい気持ちを胸に、チームの目標であるベスト8を目指して、悔いが残らないように全力で頑張っていきたいです。

## 柔道部 押領 司 万純

予定されていた代替試合もなくなりましたが、3年生はそれぞれ次の目標に向けて頑張りを続けています。大学でも続ける人が多いので、ここで終わりはなく、また大学で日本一になるために、更に気を引き締めていきます。